

「疑いは、間違いたくないという心の発露」(2021.7.18)

それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」(ヨハネ 20:27)

先月 29 日(木)の「聖書の学び」では映画「復活(RISEN)」を鑑賞した。ローマ総督ピラトの命令でキリストの処刑後の処置を任された司令官クラヴィウス。自らキリストの遺体を封印したのに、3 日目に墓が空であるとの知らせが入る。すぐに空の墓を確認し、遺体の搜索を始め、ついに弟子たちの隠れ家に踏み込む。するとそこに弟子に囲まれているキリストを発見し、ここからクラヴィウスの生き方が変わるのである。



今回この映画を見て、改めて感動した。それは、キリストとクラヴィウスの会話である。クラヴィウスは自分の戸惑いを正直に告げる。するとキリストは、「自分の目で見たのにまだ疑っているのか?・・・何を恐れている?」と質問する。彼は「間違う事です。人生がかかっている。」と答えるのである。この会話を聴いて、すぐにトマスのことが思い出された。



「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」このトマスの疑う心もまた間違う事への恐れであり、「真実に生きたい。間違いたくない。」そのような心の発露なのだ! そのトマスにキリストは上掲のみ言葉をもって疑いを取り除き、丸ごと包むのである。今回この映画を通して改めて教えられた。

キリストは、疑い悩む人に真実を求める心を見て、「あなたの指をここに当てよ」とガッテンさせ、彼を丸ごと受け止め、「信じる者になりなさい。」と励まされる。このトマスの体験は、私にとってそうであったように、疑い悩む全ての人に開かれているのだ。

次回は 9 月 30 日(木)10 時、映画「天国からの奇跡」です。少女に起きた奇跡と感動の実話を映画化したものです。是非、この機会に「聖書の学び」に参加下さい。